

質問 1

公立小中学校の児童生徒のマスクの着用について、県教育委員会は市町村教育委員会に対してどのように対応しているか。

答弁①教育長（和嶋延寿）

県教育委員会では、市町村教育委員会に対して、学校生活におけるマスクの着用を含む感染症対策に係る国の通知についてその都度周知するとともに、県立学校における感染拡大防止の取組等について随時情報提供し、各市町村立学校において適切に対応するようお願いしてきている。



質問 2

マスクを着用できない児童生徒へのいじめや誹謗中傷等に対して県教育委員会ではどのように対応しているのか伺いたい。

答弁②教育長（和嶋延寿）

県教育委員会では、新型コロナウイルス感染症に限らずいかなる理由があろうとも、いじめや誹謗中傷等はあってはならないことと考えており、未然防止の取組や相談しやすい環境づくりに努めている。

具体的には、いじめ問題に対する各学校の組織的対応力や教員の指導力向上を図るための研修会を開催しているほか、県教育委員会が設置する相談電話やスクールカウンセラーの派遣による相談活動を行うなど、いじめや誹謗中傷等で悩みを抱える児童生徒に対して心

のケアができるよう相談体制を整えている。

これまでのところ、県教育委員会が設置する相談電話等にマスクを着用できない児童生徒へのいじめや誹謗中傷等に関する相談は寄せられていないが、県立学校や市町村教育委員会に対しては、各種会議や研修等の機会をとらえ、児童生徒への適切な指導や校内での相談体制の整備について働きかけるなど、引き続き、児童生徒が安心して学べる環境づくりを進めていく。



質問 4

子どもの貧困の状況を踏まえた県の取組について伺いたい。

答弁④健康福祉部長（奈須下淳）

子どもの貧困は、生活状況や成育環境などの様々な要因が複合的に関係しているとされていることから、県では「第二次青森県子どもの貧困対策推進計画」を令和三年三月に策定し、基本方針として「教育の支援」、「生活の安定に資するための支援」、「保護者に対する職業生活の安定と向上に資するための就労の支援」、「経済的支援」及び「新型コロナウイルス感染症等の影響への支援」の五つの重点項目を掲げて施策を体系化し、総合的に推進しているところ。

具体的には、大学入学時等の一時的な経費の貸付事業や、子ども食堂や子どもの学習支援などを行う子どもの居場所づくりへの支援を行っている。

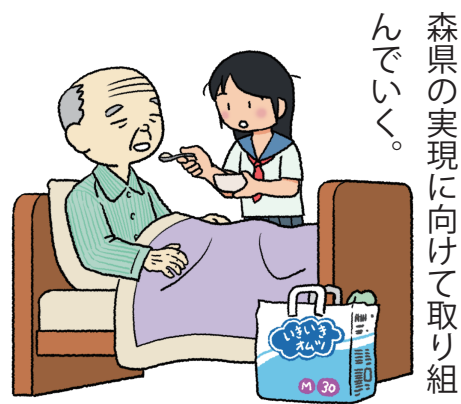


illustration / (C)la-comic_ill

また、ひとり親家庭の親が看護師等の就職に有利な資格を取得するために必要な費用の助成、児童扶養手当の支給やひとり親家庭等への医療費助成等のほか、新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中でひとり親世帯に対し支援を行うための特別給付金の給付を行っている。

県では、子どもたちが、貧困によって将来を閉ざされることがないように、市町村NPO法人、社会福祉法人などの関係機関と連携し、すべての子どもたちが夢と希望を持って成長できる青森県の実現に向けて取り組んでいく。

質問 3

県ではヤングケアラー支援に今後どのような取り組みを伺いたい。

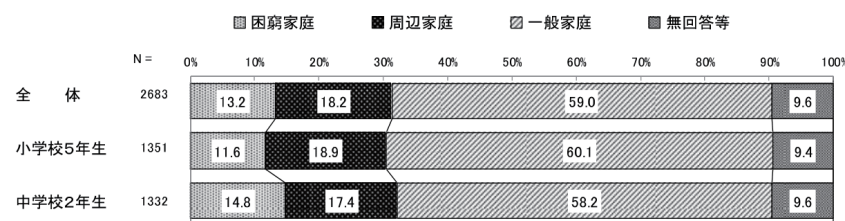
答弁③知事（三村申吾）

私は、青森県の未来を担う全ての子どもたちが、現在から将来にわたり夢と希望を持って健やかに成長し、ふるさと青森の地でその希望を実現できる環境づくりを進めることが重要であると考えている。

厚生労働省が示すヤングケアラーとは「大人が担うようなケアの責任を引き受け、家事や家族の世話などを行っている十八歳未満の子ども」としているが、ヤングケアラーの実態等については、これまで具体的に把握されていなかった。

このため、県では今年度、小学生から大学生を対象とした実態調査を行い、市町村をはじめ、各種相談・支

図 2 困窮家庭の割合



資料）青森県「青森県子どもの生活実態調査」（平成30年度）

青森県政レポート

青森県議会議員

Vol.3

つるがや貴

県議会報告

令和4年10月3日

第311回定例会一般質問



【県政レポート発行にあたり】

2023年も幕を開け、『新時代の扉を開ける年』にすべく
本年も皆さま方の声を県政に届けてまいります。

私は日々の街頭活動の中で『皆様の声をお聞かせください』と訴えています。
不安を感じ困っている方等はなかなか声を上げづらいのではないかという思いから、
どんな方の声も受け止め、その改善のために働くことが
私の使命だと考えているからです。

政治不信が叫ばれている中ではありますが、私の使命を全うして、
青森県政を皆さまに近付け、皆さまに一番身近な青森県議会議員として
これからも尽力してまいります。

この度は県政レポートを発行させていただきました。
私に取り上げている問題などご覧いただければ幸いです。

青森県議会議員 つるがや貴

つるがやたかし 県政レポート

質問 5

児童生徒の自殺については、夏季休業明けにかけて増加する傾向にあるが、自殺予防に向けた県教育委員会の取組について伺いたい。

答弁⑤教育長（和嶋延寿）

児童生徒の自殺は、厚生労働省の自殺対策白書によると、全国的に学校の夏季休業明けにかけて増加する傾向があるとされている。

このことを踏まえ、県教育委員会では、文部科学省からの通知を受け、夏季休業の前後に県立学校及び市町村教育委員会に対して、悩みや困難を抱える児童生徒の早期発見に向けた学校における取組や保護者に対する家庭における見守りの促進、学校内外における集中的な見守り活動及びネットパトロールの強化等、児童生徒の自殺予防に向けた取組を積極的



組を積極的実施するよう通知している。
また、教職員の資質向上や理解促進を図るために、自殺予防教育に関する研修会を実施し、児童生徒が安心してSOSを出すことのできる環境の整備に努めており、日頃からきめ細かな教育相談体制の充実を図っているところ。
さらに、「二十四時間子供SOSダイヤル」を始めとする電話相談窓口やSNS等を活用した相談窓口の周知を積極的に行うなど、関係機関と連携しながら、児童生徒の自殺予防に向け取組んでいるところである。

質問 6

弘前警察署を早期に建て替えるべきと考えるが、県警察の見解について伺いたい。

警察本部長答弁（磯丈男）

弘前警察署は昭和五十六年に建築され、築後四十一年が経過し、施設の老朽化が進んでいるほか手狭となっており、これに加え、本年四月の板柳警察署との統合によって、さらに狭隘化が進んでいるところ。

このため現在、弘前市と弘前警察署建て替えに向けた移転候補地についての調査検討などを行っているところである。

県警察としましては、弘前警察署の建て替えが早期に実現できるよう、引き続き関係部局と検討、協議の上進めてまいりたいと考えている。



つるがやたかし 情報発信中!!



つるがやたかし 県政レポート